

KISHIWADA City
The Smart City Concept



岸和田市スマートシティ構想



INDEX

岸和田市スマートシティ構想

KISHIWADA City The Smart City Concept

【第1章】 背景と将来像

p02

- 1 スマートシティ構想策定の背景及び趣旨 ……p03・04
- 2 構想のテーマ、基本方針、基本理念、基本原則 ……p05・06
- 3 スマートシティがめざす将来像 ……p07
- 4 中長期的な社会変化 ……p08

【第2章】 現状と取組の方向性

p09

- 1 岸和田市の現状及び特性 ……p10
- 2 スマートシティ実現に向けての課題 ……p11
 - 分野別課題 ……p12・13
- 3 スマートシティで解決すべき重点分野の設定 ……p14
- 4 重点分野を核とした領域や分野を超えた連携の考え方 ……p15
- 5 重点分野と注目すべき課題への対応方向性 ……p16
- 6 リーディングプロジェクトの取組内容とロードマップ ……p17・18・19
- 7 取組における効果の検証 ……p20

【第3章】 ロードマップ

p21

- 1 推進ロードマップ ……p22
- 2 2024年度以降におけるアクションプラン(案) ……p23・24・25
- 3 スマートシティ構想の期間と推進体制 ……p26・27

用語集

p28～

A～Z・ア～イ…p29 / イ～コ…p30 / シ～テ…p31
テ～フ…p32 / フ～ロ…p33

KISHIWADA City
The Smart City Concept

第1章

背景と将来像

スマートシティ構想策定の背景及び趣旨

構想策定の背景

■ 昨今において我が国は人口減少、少子高齢化、気候変動、インフラ老朽化等の複雑化・多様化する課題に直面しています。また、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、我が国のデジタル化の遅れが明らかになると同時に、早急な対応及び変革が求められるようになりました。

■ 本市においても、従来の方法では解決が難しい複雑化・多様化した課題に対応していくため、まちづくりや都市経営において新たな視点や変革が求められています。

■ そのような中、先端技術やデータを活用して社会課題の解決、地域社会の活性化及び持続可能なまちづくりをめざした「スマートシティ」構築への機運が高まっており、本市においてもこれら課題への対応を可能とするデジタル化への投資や実装に向けた環境整備が必要とされています。

構想策定の趣旨

■ 複雑化・多様化する社会課題及び産業構造の転換に対応し、市民生活が豊かに、そして、本市の魅力・文化及び地域資源を将来世代に継承していくためには、本市におけるスマートシティの推進が必要不可欠です。それは、「人間中心」の社会をつくることにより、格差を解消し、市民ひとりひとりの“幸せ”を実現しようとするものです。



従来の体制・方法で解決が難しい課題

人口減少
少子高齢化

予測困難な
感染症への対応

インフラ老朽化

自然災害の
頻発・激甚化

⋮

⋮



デジタル活用による持続可能なまちづくり

テクノロジーによる
社会課題の解決

SDGsに示される社会課題
と持続可能な社会の達成

新たな社会 “Society 5.0”



※Society5.0は、情報化社会の次にくるこれからの社会のこと

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



スマートシティ構想の目的

市民ひとりひとりの Well-being（幸福度）の達成

市民ひとりひとりの利便性や幸福度のあり方を考え、
個人のWell-being（幸福度）に資する取組を検討します。

取組方向性の明確化

デジタル・テクノロジーありきの考え方ではなく、
岸和田市としての取組方向性を示します。

地域・民間企業と連携した まちづくりの推進

様々なアイデアを有機的に組み合わせてまちの課題を
解決するために、民間企業や地域の力を総動員します。

岸和田市スマートシティ構想の策定

まちの将来像を見据えて、さらなる官民連携を図りながら本市に
おける課題解決や市民生活の向上につながる基本的な考え方及
び方向性を示すために岸和田市スマートシティ構想を策定します。

本市の総合計画「将来ビジョン・岸和田」の方向性を踏まえ、次のページに記載する基本理念や基本原則をもとに基本方針を定め、構想のテーマを「スマートシティが実現する”住みよい・育てよい・心地よい”市民生活」に設定します。

構想の
テーマ



スマートシティが実現する “住みよい・育てよい・心地よい”市民生活



実現
要素

Well-being

幸福感が高まる
心豊かな暮らし



生活の利便性と、人と人との「つながり」が実感できる市民生活を、デジタルの視点から追及します

【住みやすさの向上】

子育て環境の充実や移動の快適性を実現することで、まちの住みやすさと個人の幸福度を向上させます。

持続可能な都市

長期的な視野に立った
包括的な課題対応



【効果的な都市経営】

デジタル技術やデータを活用した効果的な都市経営を進めることで誰もが恩恵を実感できるまちを実現します。

市民の誇り

それぞれが大切にできる
まちの魅力と愛着



【魅力と自律性の醸成】

本市の強みや資源を深掘りしてまちの魅力を高めるとともに、市民がまちづくりを「自分ごと」と捉えられる仕組みを通して地域社会の連帯感を強化します。

基本
方針



基本理念

組織及び分野の横断・連携

今日における複合的な課題を解決するために、組織及び専門分野を越えた連携で最大限に能力を発揮しながら取組を進めていきます。

市民中心

市民生活の視点からの課題を起点とし、テクノロジーありきではなく、課題解決の手段の一つとして有効活用することにより生活の質の向上をめざします。

課題解決型アプローチ

新技術や既存技術の区分なく解決手段として効果的なものは取り入れ、市民がわくわくするような技術についても社会実装をめざして実証を行います。

基本原則

公平性・包摂性

データやテクノロジーを適切に活用することで、必要な人に必要な情報が行き届く「誰一人取り残さない」社会の実現をめざします。

オープン性・相互運用性

地域や事業領域を跨ぐ分野横断的なサービス及びデータ連携により、部分最適ではなく全体最適化された仕組みの構築をめざします。

持続可能性

新たな事業及びサービス提供を実施するにあたっては、受益者を意識した検討を行い、運営面・資金面での持続性確保に努めます。

強靭性（レジリエンス）

激甚・頻発化する自然災害、予測困難な感染症の影響下でも社会経済システム、都市機能の維持及び早期復旧を可能とするレジリエントな体制確保に努めます。

プライバシー保護

個人情報保護に係る法令順守及びプライバシーの保護を徹底し、本人同意（オプトイン）に基づく情報取得、情報提供を行います。

3

第1章 背景と将来像

スマートシティがめざす将来像

本市におけるスマートシティの取組を通して、住む人や訪れる人それぞれが感じる利便性や幸福度を高め、長きに渡って愛着を持ってもらえるまちをめざします。

様々なサービスやデータがつながり、日常生活がさらに便利になる。デジタル活用で岸和田の歴史や文化が世界に発信される。



心豊かな生活が送れている

ライフステージに応じたサービスが切れ目なく提供される。



健康が増進している

だれでもどこでも安心して使える学びの場が整備され、地域全体の教育環境が向上する。



多様な学習機会が得られている

防災に関する情報をだれでもどこでも簡単に確認できる。



安全への備えができている

“住みよい・育てよい・心地よい”

市民生活

回遊性が向上している

移動がスムーズになるとともに、サービスの一括手配によって外出先でも快適な行動ができる。



市役所が便利になっている

いつでもどこでも行政サービス手続きができる。困ったときは、個々の状況に応じて、AIコンシェルジュや職員が対応する。



ビジネスの付加価値が向上している

ロボットやAI等の活用により省力化や生産性向上が図られる。様々なデータを活用した新たなサービスが創出される。



めざすうえで必要な視点

視点1

分野横断的つながりによる新たなサービスの創出

岸和田市におけるスマートシティ推進の目的に基づき、組織や分野を超えて有機的にアイデアを組み合わせる考え方を原則とします。

視点2

小さな挑戦で始める成長するまちづくり

スマートシティに係る取組を進めるうえでは、まずは小さな挑戦を繰り返し、トライ＆エラーの中で最適な解決策を見つけていくまちづくりを推進します。



4 第1章 背景と将来像

中長期的な社会変化

スマートシティを推進するうえではチャレンジングな将来像を設定する一方で中長期的な社会変化も見据えながら着実に達成をめざします。



凡例



医療・福祉・健康



教育



防災



産業



行政サービス



移動・物流



生活・文化

KISHIWADA City
The Smart City Concept

第2章

現状と取組の方向性

1 第2章 現状と取組の方向性

岸和田市の現状及び特性



本市におけるスマートシティ構想を推進するにあたっては、本市の人口動態、地理的特性、産業構造等に関する現状及び特性を踏まえながら、領域や分野を超えた視点で、共通項目や共通課題を相互に補完しながら連携して取り組んでいくことが重要です。

まちに対する愛着は見られるが、子育て世代は流出

岸和田に対して愛着を持つ住民が多い一方で、転出傾向が続いており、特に、子育て世代が流出している。

未来の人材を育てる土壌の整備

市立の高等学校を擁し、産業（市で働くこと）に直結した教育に力を入れているが、一方、教育全般に対してあまりよいイメージを持たれていない。

車社会であり、慢性的交通渋滞地域も存在

周辺自治体と比較すると、自動車による発生集中量が多い。また、慢性的な交通渋滞が発生している地域があり、市民生活に影響を与えている。

快適性に影響する交通網の整備不十分地域の存在

「牛滝の谷」、「葛城の谷」、「北部地域の臨海部」など交通網の整備が不十分な地域があり、市民の快適性に影響を与えている。

特色ある農業や漁業

農業では、府内有数の経営耕地面積及び農産物生産額を誇っており、漁業においては、府内の漁獲量で最も多くのシェアを獲得している。

市内事業者求められるDX化

工業は、金属製品製造業や繊維工業を中心に、事業所や製造品出荷額を伸ばしてきたが、DX化への人材などが不足している。

2050年におけるカーボンニュートラルをめざす

「ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロをめざすために、地域のものを地域で消費する取組などを進めている。

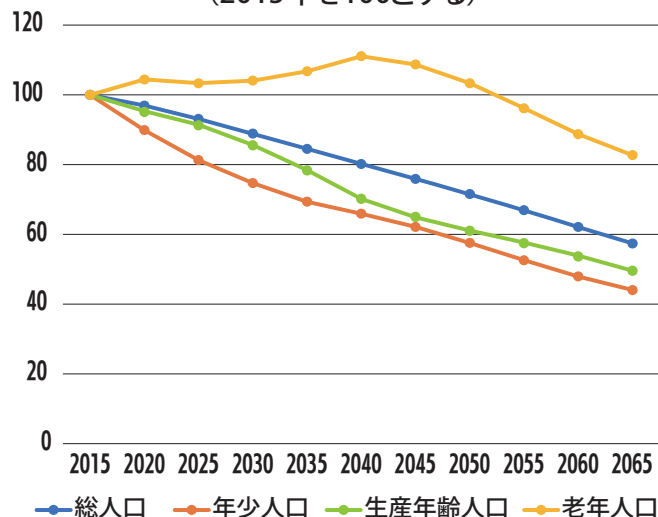
豊富な観光資源

本市には、岸和田城、歴史文化、海や山などの豊かな自然環境、特産物などの観光資源が存在している。



市全体の課題

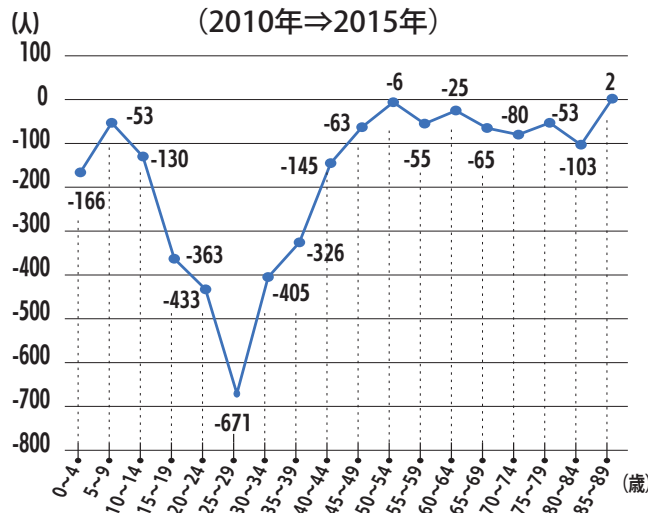
人口減少・高齢化

年齢3区分別人口推移
(2015年を100とする)

☑ 2005年の20万1,000人をピークに人口減少が続いており、2040年には15万人台まで減少する見込みです。

☑ これまでの人口構成を前提とした制度では、まちの機能が成り立たない恐れがあり、量より質を重視したまちづくりが求められます。

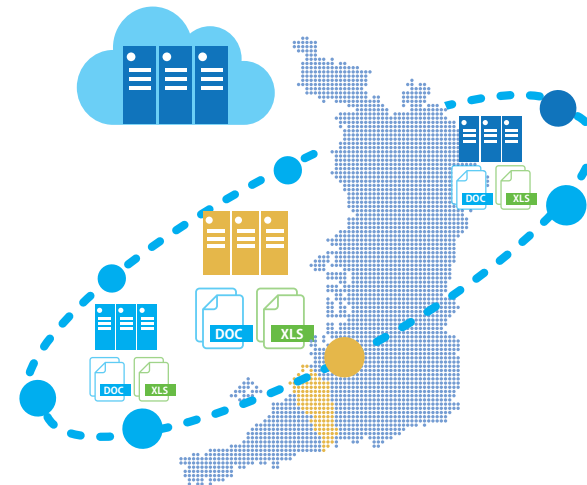
子育て世代の転出

岸和田市における年代別の社会増減の推移
(2010年⇒2015年)

☑ 大阪府全体と比較すると、30歳前後の子育て世代が多く転出する傾向にあります。

☑ 合計特殊出生率は府内トップクラスですが、人口維持水準には達しておらず、未来を担う世代が子どもの頃からまちに触れて成長するためにも、子育て世代の転出に伴う就学前児童の転出超過改善が求められます。

効果的なデータ連携



☑ ICT技術や民間企業のノウハウを活用した行政の効率化が求められる中、データ活用に関する共通指針がなく、全庁的な統合データの作成が難しいことから効果的なデータ連携が図れていません。

☑ また、大阪府や近隣自治体と連携したサービス提供が求められていますが、各自治体が同様の課題を抱えています。

分野別課題

仕事 産業

- 1 市内中小企業のDX化やデジタル化が推進されているが、十分とはいえない
- 2 府内第2位の農業生産量を誇り、都市近郊の立地を活かした施設園芸を中心とした農業が展開されているが、後継者不足や高齢化が進んでいる他、農地も減少している
- 3 情報技術の活用により、漁業や農業の生産性が向上し、担い手を増やすことが求められている

医療・福祉

- 4 医療体制がより充実し、必要なときに必要な医療が受けられる環境づくりが求められている

居住 生活

- 5 市に対して愛着を持つ住民が多いが、新たな住民にとってはなじむまでに不安感を感じる場合がある
- 6 町会に入っていない住民は、広報による情報入手に不便を感じる場合がある
- 7 大気汚染や騒音等の公害対策が求められている
- 8 子育て世代がより住みやすさを感じられるような子育て支援策の充実が求められている
- 9 ライフステージに応じた部門横断的な包括支援の実施が求められている

安全 治安維持

- 10 刑法犯罪認知件数が多く、安全な地域づくりが求められている
- 11 交通マナーの向上や交通事故を防ぐ環境づくりが求められている

社会インフラ

- 12 市民のITリテラシーは一定向上しているものの、十分とはいえない
- 13 公共施設の予約システムの使いやすさの改善など市民の利便性向上に向けた施設利用の取組が求められている
- 14 市内の各種施設の維持管理コストが増大しており、施設管理のスマート化などデジタルを活用した効率的な運営が求められている
- 15 子どもと保護者が安心・安全に遊ぶことができ、高齢者にもやさしい公園づくりが求められている
- 16 庁内で活用可能なデータが一元化されておらず、全庁的にオープンデータの連携・活用に関する仕組みが求められている

防災

- 17 総合防災マップやハザードマップなど、防災・災害時に役立つ情報は一定整備されているが、まとめると便利な情報が一元化されておらず、プッシュ型での情報発信も求められている
- 18 災害を未然に防ぐための都市基盤整備が十分とはいえない



分野別課題

健康

- 19 特定健診受診率が制度開始当初から低迷しており、受診勧奨の効果があまり出ていない
- 20 市民の運動・スポーツ年間実施率は48.9%となっており、特に40歳代以下の比較的若い世代の実施率が低い
- 21 小学生及び中学生の体力合計得点の平均値は、全国平均を下回っており(令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣調査)、児童生徒の体力の状態に合わせた教育環境の実現が求められている

移動物流

- 22 一部地域では交通網整備が不十分であり、買い物などのための移動が不便な地域がある
- 23 周辺市町と比較すると鉄道による発生集中度が比較的少なく、自動車による発生集中度が比較的多い傾向にある
- 24 住民の自宅から最寄りのバス停まで距離がある場合はスマートモビリティと連携して公共交通に接続するなど、公共交通基盤を中心とした多様な移動手段の確保が求められている

人口減少 担い手不足

- 25 高齢化が進展しており、遅くとも2040年には3人に1人が65歳以上の高齢者となる時代の到来が予測されている
- 26 転出超過傾向が続いており、特に若年層の生産年齢人口が減少している
- 27 地域活動や地域活動に取り組んでいる団体の情報が市民に十分に届いていない

子育て 教育

- 28 子育て・教育環境のさらなる向上が求められており、子育て世代の転出につながっていると考えられる
- 29 既存の子育て支援の取組が上手く伝わっていない
- 30 子育てに不安を抱きつつも相談することができず、孤立する家庭や経済的に不安を抱える家庭の増加、子どもの貧困が発生している
- 31 固定化されたまちのイメージを持っている人が一定数おり、市の魅力が十分に伝わっていない
- 32 保育を必要とする人が、安心して子どもを預けられる環境づくりが求められている
- 33 保護者との連絡手段のオンライン化などデジタル化による業務改革が求められている

観光振興

- 34 データ利活用を含めた観光の活性化が求められている
- 35 旅行者が訪れやすくなる情報発信のあり方や観光スポット間の連携促進、移動の利便性向上についての検討が求められている
- 36 市自体の認知度に加えて、市内のコンテンツに関する認知度向上が求められている

自然環境

- 37 自然エネルギーの活用や省エネ給湯器の利用、住宅の断熱性の向上など、環境への負荷が少ない住宅の導入を進める取組を通じた、環境への配慮が求められている



スマートシティで解決すべき重点分野の設定



本市における主な課題と本市が有する特徴・強みから、スマートシティで解決すべき5つの重点分野を設定しています。

主な課題

子育て世代が
流出している

子どもたちの
学びを支える環境が
十分とはいえない

自動車の
交通量が多い
慢性的な交通渋滞が
発生している

公共交通が不便な
地域がある

生活習慣病の
早期発見と予防のため、
特定健診の
受診率向上が必要



スマートシティで解決すべき5つの重点分野



子育て・教育



安全・治安維持



移動・物流



健康



観光振興



住民が
地域への誇りや
愛着を持っている

歴史もあり
地域に根付いている
中小企業が
多数存在している

農・水産物、
特産品など多くの
地域資源がある

岸和田城を
はじめとする歴史文化、
自然などの
観光資源がある

行政内部の
DXを推進し、
健全な行財政運営を
進めている

特徴・強み



4 第2章 現状と取組の方向性

重点分野を核とした領域や分野を超えた連携の考え方

重点分野である「子育て・教育」、「安全・治安維持」、「移動・物流」、「健康」、「観光振興」を起点として、共通課題及び共通領域等をカバーし合う形で連携を図り、解決策の検討やサービスの構築を行うとともに、産学官の協働によりプロジェクトを推進します。



デジタル・ガバメントの推進

行政のあらゆる分野でデジタルを徹底的に活用することにより、市民や企業の利便性を向上するとともに、行政事務の簡素化や合理化などを図り、より効率的で効果的な行政を実現する

まるごと未来都市 = スーパーシティ構想

2030年頃の実現される未来社会の先行実現に向けて、幅広く生活全般に関わる先端的なサービスが、住民目線でより良い暮らしの実現を図ることをめざして提供される構想

5 第2章 現状と取組の方向性

重点分野と注目すべき課題への対応方向性

重点分野を核として、具体的なリーディングプロジェクトを検討するにあたっては、重点分野の中でも特に優先的な解決を必要とする注目すべき課題を見極めたうえで「くらす」、「そだつ・かがやく」、「ささえる」の3つの方向性に基づいた対応を行います。



プロジェクト名
(仮称)

移動がスムーズなまちづくり

関連する
3つの方向性

くらす



そだつ・かがやく

ささえる

将来に向けてのイメージ

例) 自動運転など、子どもから高齢者まで、安全に行きたいところに移動でき、交通渋滞や事故が減っている

- ☑ 新拠点交通広場と連携して、次世代モビリティの活用の実証や実装が実施されている
- ☑ 公共交通とパーソナルモビリティのスムーズな乗り換えの実証や実装が実施されている
- ☑ シェアリングサービスなどの予約から利用までの快適な環境構築の実証や実装が実施されている



2024年度

- ☑ 実証実験を継続し、路線バスの利用実績や利用者の意見を把握する
- ☑ 実証実験の効果測定を行う
(実証実験のブラッシュアップを含めた対応)

2025年度

- ☑ 事業継続性を判断する
- ☑ 市内他地域での実施計画を策定する

2026年度

2027年度以降

- ☑ 本取組を市内他地域に展開する

プロジェクト名
(仮称)

いろいろな学びに出会える、つながる取組

関連する
3つの方向性

くらす

そだつ・かがやく

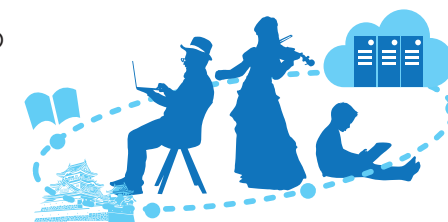


ささえる

将来に向けてのイメージ

例) 知りたい情報や必要な学びが簡単に見つかるとともに、様々な人が幅広い学びの機会や場に参加している

- ☑ 学校で活用できる地域の産業や伝統・文化に関する情報が、一元管理され、共有されている
- ☑ データに基づき、最適な学習コンテンツや活動が推進されている
- ☑ 事業者との連携による新たな学びの場が創出されている



2024年度

- ☑ データ化すべき情報を検討する
- ☑ データ化にあたっての課題を把握する

2025年度

- ☑ データ化を進める
- ☑ データの運用方法などを検討する

2026年度

2027年度以降

- ☑ 仕組みを構築する
- ☑ スモールスタートで取組を開始する

プロジェクト名
(仮称)

市民と行政がつながる データ連携基盤の構築を見据えた取組

関連する
3つの方向性

くらす

そだつ・かがやく

ささえる



将来に向けてのイメージ

例) 自宅にいて簡単に、様々な行政手続きや民間サービスの情報が入るとともに、サービスが受けられる

- ☑ 時間や場所にとらわれずに行政サービスの手続きが可能になっている
- ☑ 24時間WEB上で問合せができる
- ☑ 市民や地域、行政のつながりやコミュニケーションがオンラインで実施されている



2024年度

- ☑ データ化やオンラインサービス化すべき手続きを検討する
- ☑ データ化にあたっての課題を把握する
- ☑ 大阪広域データ連携基盤 (ORDEN) の要件を確認する

2025年度

- ☑ データ化を進める
- ☑ データの運用方法などを検討する
- ☑ 大阪広域データ連携基盤 (ORDEN) への共同化を見据えてデータや接続仕様を確認し、段階的な連携を実装する

2026年度

2027年度以降

- ☑ 仕組みを構築する
- ☑ スモールスタートで取組を開始する
- ☑ 大阪広域データ連携基盤 (ORDEN) との連携範囲を拡大する

7 第2章 現状と取組の方向性

取組における効果の検証

本市におけるスマートシティは、「住みやすさ」や「幸福度」を示すLWC (Liveable Well-Being City) 指標を評価に活用し、スマートシティの改善サイクルを回すことで、めざすべき将来像達成に向けた歩みを進めていきます。

岸和田市スマートシティにおける利便性や「つながり」の実感

社会的に良好 精神的に良好 身体的に良好

KGI

将来ビジョン・岸和田における「みんなでめざそう値」の達成

- 市民のWell-beingの向上
- 住みやすさの向上
- 地域環境の改善

改善・反映

可視化

データの測定方法

アンケート分析、オープンデータの分析、センサーデータの分析等

データ測定の視点

エビデンス構築による検証(EBPM)の強化、効果的な事業選択の徹底

牽引組織における取組推進

岸和田市スマートシティ
推進協議会

プロジェクトの遂行

効果的な手法・事業の共有

地域課題解決策の検討

事業提案、事業創出

課題の提示

フィードバック

LWC指標を用いた住みやすさ、幸福度の数値化

心の因子

主観的幸福感指標

地域生活の

Well-being

地域における市民の
主観的な幸せを測る指標

協調的幸福

「場」や「関係性」に関する
地域で循環する
幸せを測る指標

活動の因子

活動実績指標

ActiveQoL

アンケートやウェアラブル端末
で日々の生活活動に
対する満足度を測る指標

暮らしやすさ

寛容性

実際に、市民が取った
行動実績を測る指標

環境の因子

生活環境指標

暮らしやすさ

オープンデータを基に、Well-beingの構成要素(身体、社会、精神)
に関わる地域の生活環境を測定する指標

KISHIWADA City
The Smart City Concept

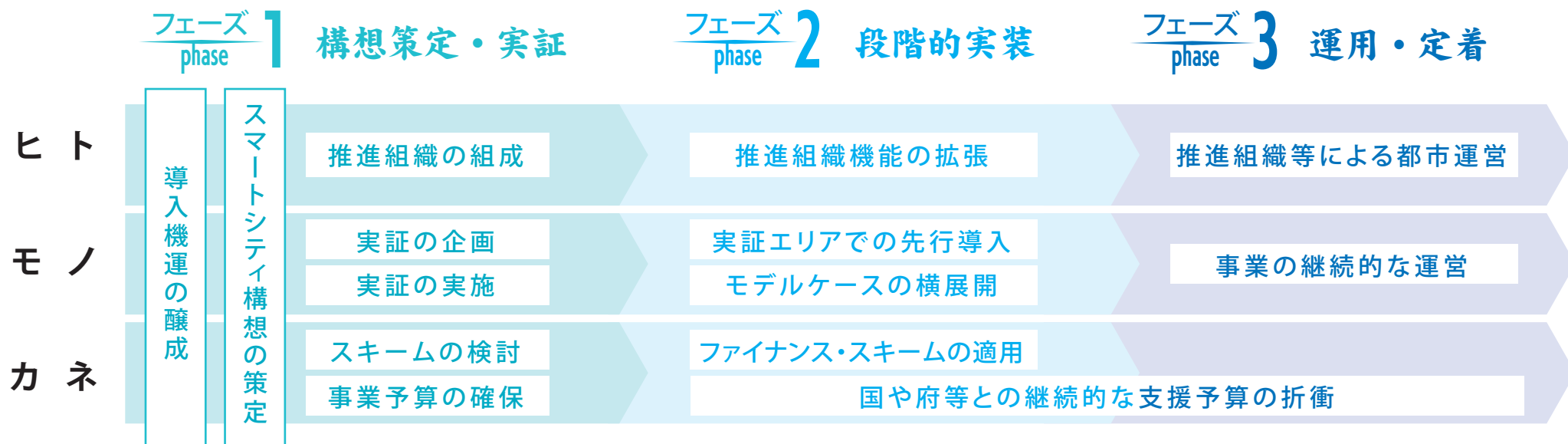
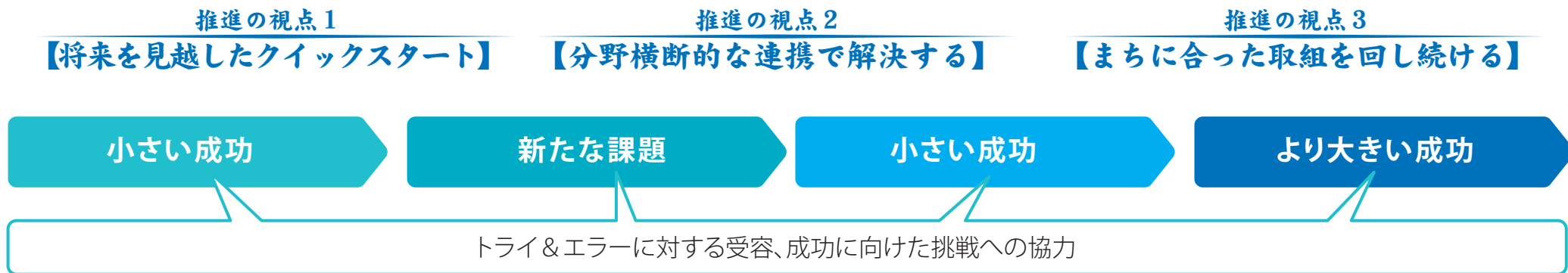
第3章

ロードマップ

1 第3章 ロードマップ 推進ロードマップ



本市におけるスマートシティの実装に向けては、取組の期間を大きく「構想策定・実証」、「段階的実装」、「運用・定着」の3フェーズに分け、それぞれのフェーズで小さな成功を積み重ね試行錯誤しながら、目標とする将来像の達成をめざします。



2 第3章 ロードマップ 2024年度以降におけるアクションプラン(案)



本市におけるスマートシティ構想策定にあたっては、「くらす」、「そだつ・かがやく」、「ささえる」の3つの方向性からワーキンググループを組成し、本構想策定の次年度にあたる2024年度以降にまちの将来像の実現のために、各ワーキンググループとして取り組むべきコンセプト(取組方向性)を設定するとともに、討議された内容をアクションプランとしてまとめています。

重点分野の
注目すべき
課題対応の
方向性

くらす

移動
防災
WG

子育て
健康
WG

教育
WG

そだつ
かがやく

観光
シティーセールス
活性化
WG

ささえる

データ
連携
WG

コンセプト

- ・目的から考えるまちづくりとの連携や地域のサポートによる移動のスマート化
- ・全てのデータがつながって危険を避けられる、準備できる仕組みづくり
- ・知りたい時に知りたい情報を得られる見える化
- ・市民が気軽に気をつけや・こうしてや・こうしようやを発信

コンセプト

- ・ハッピーバースデーからウェルエージングまでライフステージに応じたベストチームで支える
- ・デジタルとの共生で実現する「温かみを感じる」日常生活
- ・デジタル時代における誰もが居心地の良い地域社会のあり方を再定義するプラットフォーム

コンセプト

- ・安心してだれでもどこでも使える学びの場
- ・学びのコンシェルジュ

コンセプト

- ・地域の魅力を集め、充実したコンテンツ等を発信し、みんなが盛り上がるまち

コンセプト

- ・いつでも(時間) どこでも(スマホ・地域拠点) 誰でもつながる
- ・データを活用し新たなサービスを創出し皆の生活が豊かになる基盤



移動 防災 WG

コンセプト

関連する分野別課題

目的から考えるまちづくりとの
連携や地域のサポートによる
移動のスマート化

4 8 11 22 23
24 25 26 35

コンセプト

関連する分野別課題

知りたい時に知りたい
情報を得られる見える化

10 11 17 18 25
27 28 29 30

全てのデータがつながって危険を
避けられる、準備できる仕組みづくり

7 10 11 14 15
17 18 26

市民が気軽に気をつけや・
こうしてや・こうしようやを発信

5 6 8 10 11
14 15 16

サービス 概要 (イメージ)

- ☑ 持続可能な交通手段の検討のために、情報収集する仕組み(AIオンデマンド交通の試験導入による検証や人流データ(マクロデータ)の収集による分析)を構築する
- ☑ 分析に基づき、最適な交通手段を選択し、地域にあった持続可能な新たな交通手段を導入する

サービス 概要 (イメージ)

- ☑ 防災に関する取得可能な情報を収集・整理し、それらのデータをわかりやすく表示する
総合防犯・防災アプリを導入する
- ☑ パーソナルな避難情報と避難所での受付情報との連動、避難所情報や警察・消防などのデータに基づく危険地域の情報共有の仕組みを検討する

子育て 健康 WG

コンセプト

関連する分野別課題

ハッピーバースデーからウェル
エイジングまでライフステージに
応じたベストチームで支える

1 4 9 19 20
21 28 29 30 31
32

デジタルとの共生で実現する
「温かみを感じる」日常生活

1 4 13 25 31

デジタル時代における誰もが
居心地の良い地域社会のあり方
を再定義するプラットフォーム

12 25 27 30 31
32

サービス 概要 (イメージ)

- ☑ 健康データやライフステージ・ライフイベントごとの悩みごとデータなどを集約した住民ポータルを導入する
- ☑ 上記ポータルと連動して市民が助け合える(共助の精神を育む)仕組みを検討する
- ☑ 個人の悩みに対して解決策を提案するチーム(悩みの分類と個人の情報に基づいて自動マッチング)を組成し、地域における共助を促進する(解決に向けたインセンティブの付与を検討する)

※各コンセプトに対して関連のある分野別課題(P12・P13)の番号を表示しています。これらは課題に対する副次的効果等を含みます。



教育 WG

コンセプト

関連する分野別課題

安心してだれでもどこでも
使える学びの場

20 21 28 29 30
31 32 33 34 35
36

学びのコンシェルジュ

1 2 3 13 25
27

サービス 概要 (イメージ)

- ☑ 地域の教育資源(地域の産業情報、事業者情報、生涯学習などのコンテンツデータ)を集めたデータベースを構築する
- ☑ 地域人材(先生、事業者、地域の「魅力を創造する人」)の技術や知識が登録できる情報登録アプリを導入する

観光 シティー セールス 活性化 WG

コンセプト

関連する分野別課題

地域の魅力を集め、
充実したコンテンツ等を発信し、
みんなが盛り上がるまち

1 2 3 12 15
16 17 18 20 21
27 34 35 36 37

サービス 概要 (イメージ)

- ☑ まちの情報集約・発信をワンストップで提供する仕組みなどを導入する
- ☑ 集約した情報(観光・災害・交通・施設情報等)をAIによる分析を行い、どのタイミングで何を投稿したら効果的かがわかる仕組みを検討する

データ 連携 WG

コンセプト

関連する分野別課題

いつでも(時間)どこでも
(スマホ・地域拠点)
誰でもつながる

4 6 8 13 22
25 30 33

データを活用し新たな
サービスを創出し
皆の生活が豊かになる基盤

2 3 4 8 9
10 11 16 17 18
19 27

サービス 概要 (イメージ)

- ☑ 自宅に居ながら各種行政書類の申請手続きや来庁予約ができる窓口支援システムを構築する
- ☑ オープンデータなどの充実とともに、データを見える化するダッシュボードを構築する
- ☑ 問合せ情報(窓口や電話)などをデータ化し、蓄積したデータから自動で応答する仕組みを検討する

※各コンセプトに対して関連のある分野別課題(P12・P13)の番号を表示しています。これらは課題に対する副次的効果等を含みます。



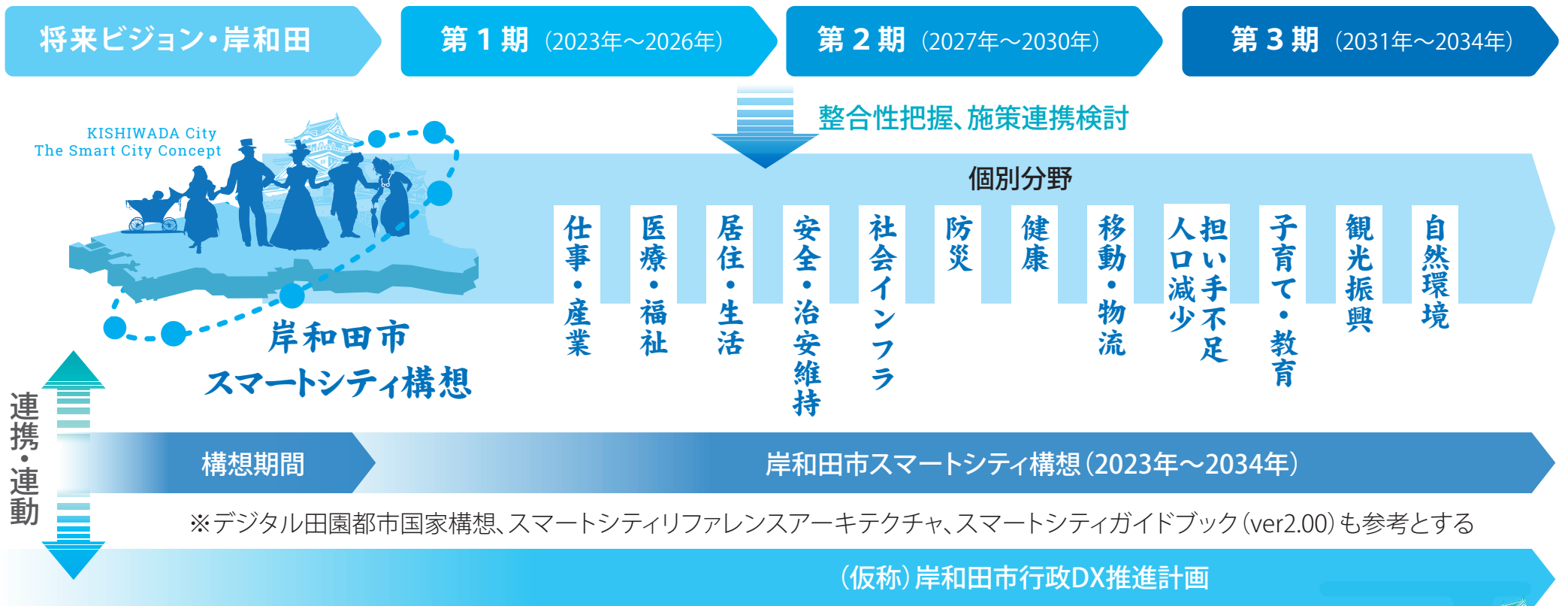
3 第3章 ロードマップ スマートシティ構想の期間と推進体制

岸和田市スマートシティ構想の期間

本市における構想を推進するうえでは総合計画「将来ビジョン・岸和田」と足並みを揃えるため期間を12年とします。ただし、時代の流れに柔軟に対応するため、適宜見直し、取組を推進します。

「岸和田市スマートシティ構想」は、デジタル活用の観点から分野横断的な取組指針となるもので、本市の最上位計画である総合計画「将来ビジョン・岸和田」における各種施策と整合性を図りながら進めます。

将来ビジョン・岸和田「笑顔にあふれ、誰もが“幸せ”を感じる都市の実現」

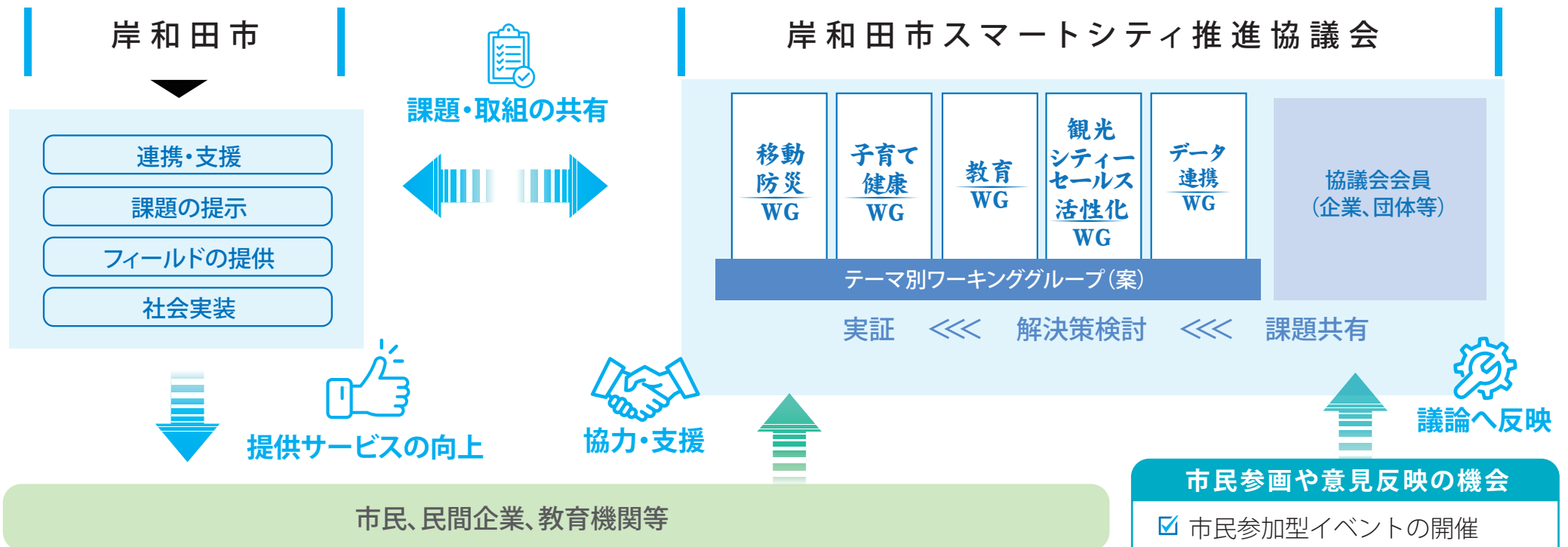


岸和田市スマートシティの推進体制

本市におけるスマートシティでは、産学官からなる「岸和田市スマートシティ推進協議会」を設立し、各種施策やプロジェクトの検討及び実証を進めます。また、「岸和田市スマートシティ推進協議会」には本市におけるスマートシティ構想策定及び構想におけるアクションプラン（案）を検討したテーマ別WGが包含され、継続して活動を行います。

「岸和田市スマートシティ推進協議会」はスマートシティ実現に向けたプロジェクト等の牽引組織としての役割を担う組織体です。

「岸和田市スマートシティ推進協議会」における検討の実施にあたっては、市民の意見を適宜反映しながら議論を進めます。



【岸和田市スマートシティ推進協議会の機能】

- ☑ 分野間連携の促進
- ☑ データ利活用の推進
- ☑ 事業提案、事業化支援
- ☑ テーマ別WGによる情報交換、取組検討及び共有
- ☑ スマートシティ推進に係る人材育成、参入企業の公募を始めとする関係構築
- ☑ 会員提案による取組案及び施策案の事業化に向けた協議、実証

KISHIWADA City
The Smart City Concept

用語集

用語一覧	解説
AI	人工知能、artificial intelligenceのこと。言語の理解や推論、問題解決などの知的行動を人間に代わってコンピュータに行わせる技術。
AIコンシェルジュ	人工知能を活用して、相手とのコミュニケーションを行い、サービスの提供や問題解決を行うシステム。
EBPM (Evidence Based Policy Making)	政策立案や意思決定において科学的根拠や実証データを活用することをめざす取組。
GIGAスクール構想	1人1台のパソコン端末、通信ネットワーク等の学校ICT環境を整備し、活用することで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を実現して教育の質を向上する構想。
ICT (Information and Communications Technology)	コンピュータやデータ通信に関する技術をまとめた呼び方。
LWC (Liveable Well-Being City)	客観指標と主観指標のデータをバランスよく活用し、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感 (Well-being)」を指標で数値化・可視化し、住みやすく、健康的で持続可能な都市を指す概念。
MaaS	サービスとしてのモビリティ、Mobility as a Serviceのこと。いろいろな種類の交通サービスを、需要に応じて利用できる一つの移動サービスに統合すること。
Society5.0	仮想(サイバー)空間と現実(フィジカル)空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会をめざすビジョン。
Well-being (ウェルビーイング)	個人や社会のよい状態。健康と同じように日常生活の一要素であり、社会的、経済的、環境的な状況によって決定されるもの。
アプリケーション/アプリ	コンピュータ上で、使用者が利用目的に応じて使うソフトウェアを指す。一般的に、特定の目的や機能を持ったプログラムのことを指すことが多い。
インセンティブ	目標やノルマを達成した際の報奨のように意欲を引き出すために外部から与えられる動機付けのこと。





用語一覧	解説
インフラ	社会生活を支える基盤設備。交通、通信、水道、電力、ガスなどのライフラインなども含まれ、日常生活の機能を維持し、経済活動を円滑に進めるために不可欠なもの。
ウェアラブル端末	身につけられるIoT機器やコンピューターのことで、腕時計型、指輪型、メガネ型などがあり、メールの通知や電話、健康管理などの様々な機能のものがある。
エビデンス	科学的な研究や法的な証明などの客観的かつ信頼性が高い情報源から得られた証拠や根拠となる情報やデータのこと。
大阪広域データ連携基盤 (ORDEN)	オルデン (ORDEN: Osaka Regional Data Exchange Networkの頭文字)。大阪府が構築した、公民の様々なデータの流通・連携を促進し、府民の利便性向上と大阪の都市競争力の強化を目的として整備された広域データ連携基盤。
オープン性	仕様や設計などの情報を公開することなど。技術的な革新や創造性の促進に寄与するもの。
オープンデータ	特定のデータが、一切の著作権、特許などの制御メカニズムの制限なしで、全ての人々が望むように利用・再掲載できるような形で入手できるべきであるというアイデア。主に国や地方公共団体が公開している、誰もが利用可能なデータ。
オプトイン	個人情報取り扱いなどにおいて、消費者や情報主体から事前に同意を要する方法や仕組み。
オンデマンド交通	路線バスのような路線定期型交通とは異なり、運行方式や運行ダイヤ、発着地の自由な組み合わせにより地域の特性に応じた柔軟な運行を可能にした交通システム。
カーボンニュートラル	人為的な温室効果ガスの排出量を人為的な植林や森林管理などによる吸収量を差し引くことで、排出量を実質的にゼロにすること。
行政DX	行政機関がデジタル技術を活用して業務を効率化し、サービスの提供方法を変革すること。
コンテンツ	文章、画像、動画、音声など様々な形式で情報やアイデアを表現したもの。





用語一覧	解説
シェアリングサービス	モノやスキル等の遊休資産を多くの人と共有したり、個人間で貸し借りをしたりする際の仲介を行うサービスの総称。
シティーセールス	地域の観光資源や文化、歴史、食品、イベントなどの魅力を積極的にアピールし、観光客や訪問者を引きつけること。
自動運転	人間による自動車の運転の4要素である「認知」「予測」「判断」「操作」をシステムが行う運転のこと。
スーパーシティ	スマートシティの一類型であり、住民が参画し、住民目線で、2030年頃の実現する未来社会を先行実現することをめざす構想。
スマートシティ	ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメント(計画、整備、管理・運営等)の高度化により、都市や地域の抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を創出し続ける、持続可能な都市や地域であり、Society 5.0の先行的な実現の場。
スマートシティガイドブック	スマートシティに取り組む事例などを踏まえた、スマートシティの意義・必要性、導入効果、及びその進め方などについてとりまとめたもの。
スマートシティリファレンス アーキテクチャ	スマートシティの設計や実装において、基本的な概念、構成、プロセス、モデルを定義するための枠組み。
スマートモビリティ	人工知能、情報通信技術など様々な最新のテクノロジーを活用し、交通システムやサービスを向上させることを指し、将来的に交通の流れの最適化、渋滞の緩和、安全性、環境負荷の削減など新世代モビリティ社会の実現を築く取組。カーシェアリングサービス、自動運転、MaaSなど。
ゼロカーボン	温室効果ガス(二酸化炭素など)の排出量を全体としてゼロにすること、またはそのための取組。
ダッシュボード	複数の情報源からデータを集め、概要をまとめて一覧表示する機能や画面、ソフトウェア。
データ	ものごとに対する客観的な事実を数値や記号として記録したもののことで、情報の素材。





用語一覧	解説
データ連携基盤（都市OS）	スマートシティでの様々な分野のサービスの導入を容易にするためのITシステムの総称で、スマートシティ実現のために整備されるデータ連携基盤をコンピューターのOSに例えて「都市OS」と呼ぶこともある。
テクノロジー	科学技術。学問的知識の科学と科学を活かして人間の生活に役立たせる方法の技術が組み合わさった言葉。
デジタル	離散量。情報を二進数の0と1で表現し、コンピュータで扱える形式のもの。
デジタル・ガバメント	デジタル技術の徹底活用と、官民協働を軸として、全体最適を妨げる行政機関の縦割りや、国と地方、官と民という枠を超えて行政サービスを見直すことにより、行政のあり方そのものを変革していくこと。
デジタル・トランスフォーメーション（DX）	デジタル技術により、人々の生活をあらゆる面でよい方向に変革させていくこと。
デジタル田園都市国家構想	「デジタル実装を通じて地方が抱える課題を解決し、誰一人取り残されずすべての人がデジタル化のメリットを享受できる心豊かな暮らしを実現する」という構想。
パーソナルモビリティ	街中での近距離の移動を想定した電動で移動する手段のこと。電動車椅子、電動アシスト付き自転車、電動キックボードなど。
ファイナンス・スキーム	資金調達の仕事、構造。①プロジェクトへの関わり方（議決権）②事業の資本構成③資金提供の対象④設備調達方法という4点の組み合わせを検討することが重要とされている。
フェーズ	プロジェクト全体に対してそれよりも小さな期間・規模でプロジェクトを区切った単位。
プッシュ型	対象者からの申請を待たず、行政機関などが対象者を抽出して自ら率先してサービスなどを提供すること。
ブラッシュアップ	完成度を高め、よりよくすること。



用語一覧	解説
プラットフォーム	様々な利用者や開発者が相互につながり、情報やサービスを交換できる基盤や枠組みを指す。
ポータル	情報やサービスへのアクセスを提供するウェブサイトやアプリケーションの入口のこと。インターネット上で最初に閲覧されることを目的としたウェブサイトである「ポータルサイト」の略称。
マイナンバーカード	申請により無料で交付される、氏名、住所、生年月日、性別などが記載された、顔写真付きのプラスチック製のカード。裏面にはマイナンバー(12桁の番号)が記載されており、法令または条例で定められた手続におけるマイナンバーの確認に利用できる。
マクロデータ	大規模なデータ。大きな全体的傾向を見るためのデータ。ミクロデータとの対比で用いられる。
マッチング	人同士や人とサービスが適材適所になるように組み合わせること。
無人自動運転サービス (レベル4)	自動運転レベル5段階の4段階目。運転主体がシステムであり、走行ルートなど特定条件下での完全な自動運転ができる水準。
リテラシー	特定分野に関する知識やその知識を活用する能力。例えば、ITリテラシーは、IT(情報技術)に関する知識を適切に理解して活用する能力。
レセプト	保険診療における診療報酬を請求する際に使われる診療報酬明細書。専用コンピュータで作成され、医師による確認の後に、審査支払機関へ提出される。
ロードマップ	製品や技術、市場など特定の対象について、現在から将来のある時点までの展望や計画などをわかりやすく図や表にまとめ、見通しをつけたり将来予想を示すのに用いられる予定表や工程表。



岸和田市スマートシティ構想

KISHIWADA City The Smart City Concept



岸和田市 総合政策部 企画課 発行

発行年月 令和6年 3月